

新型コロナウイルス感染症

感染拡大防止に関する情報について

村内イベント情報

※6月24日現在

【中止】

日時	イベント名	備考
7月31日～8月1日	市町村対抗青森県民体育大会	

新型コロナワクチン接種について

5月から65歳以上の方の接種が始まりました。7月下旬には終了し、その後は65歳未満の方の接種を進めていく予定です。

接種後に頭痛や接種部位の発赤や腫れなどの症状が表れたという声が聞かれていますが、重大な健康被害の連絡は受けていません。

安全に接種し感染を予防するためにも、新型コロナワクチンの理解を深めましょう。

ワクチンQ&A

1. 筋肉注射は痛みが強いのでは？

新型コロナワクチンは、筋肉注射を行うように開発されているものが多く、痛みが強いのではないかと懸念もありますが、専門家は必ずしも痛みが強いわけではないと指摘しています。

筋肉注射は、皮下脂肪のさらに奥にある筋肉に打つ注射の方法で、注射針を上腕部に直角に刺して接種します。

国内ではインフルエンザなどの予防接種で皮膚と筋肉の間に打つ皮下注射が行われていますが、筋肉注射の方がワクチンの成分の吸収が早いと考えられています。海外からは痛みが強いという報告もありますが、筋肉注射であればすべて痛みが強いわけではなく、ワクチンに含まれる成分などによるほか、痛みの感じ方には個人差も大きいということです。

2. 接種前後の体調や行動は？

ワクチンの接種に際して、体調がすぐれない場合などは控えるようにすすめられることがあります。厚生労働省は、37.5度以上など明らかに発熱している方や体調が悪い場合などは控え、持病のある方や治療中の方は接種前の診察の際に医師に相談するよう呼びかけています。

接種を受けた後は、アレルギーが出ないか確認するため15分以上接種会場で待ち、体調に異常があった場合は医師に連絡するよう呼びかけています。

接種した当日は、入浴は問題ありませんが、注射した部分をこすらないようにして、激しい運動を控えましょう。

3. 副反応は起きる？

副反応はどのようなワクチンでも見られます。アメリカの疾病対策センターは、ファイザーとモデルナが開発したワクチンでそれぞれよくみられる副反応として、痛みや腫れ、肌に赤みが出るほか、寒気や倦怠感、頭痛が報告されているとしています。こうした副反応は、通常ワクチン接種後1～2日以内に起きて数日で消えることが多いということです。



接種後1～2日すぎに起きることが多い
大半は数日で消える

4. ワクチン接種後に感染することは？

ワクチン接種後でも新型コロナウイルスに感染する可能性はあります。最も高い発症予防効果が得られるのは、2回目を接種してから7日程度経って以降です。体の中である程度の抗体ができるまでに1～2週間程度かかるため、1回目の接種から2週間程度はワクチンを受けていない方と同じくらいの頻度で発症してしまうことが論文などでも報告されています。また臨床試験においてワクチンを2回接種した場合の有効率は95%と報告されており、100%の発症予防効果が得られるわけではありません。